

奈良のむかしばなし

第65話

梨の木の仏さま 文・山崎しげ子

像を彫りかけたままの梨の木が川の橋として架けられているのではない。

驚いた広達は、早速その梨の木を清浄な場所に移し、合掌して誓った。

「ご縁があつてお会いしました。私が必ずお造り申し上げます」。

やがて広達は阿弥陀仏、弥勒仏、観音菩薩の像を彫り上げ、越部村（大淀町越部）の「岡堂」に安置した。

*

このお話は、平安時代の『日本霊異記』『今昔物語集』などにも見える。

越部川沿いの古道（壺阪道）を北へ辿った。岬状の台地の先にある「越部古墳」。直径二十四メートルの円墳で、七世紀頃の地元有力者の墓とされる。

古墳近くに寺院があつたようだ。石室から「堂」と書かれた平安時代の墨書土器が発見された。「堂ノ坂」「堂ノ上」の地名も残る。広達が彫つた仏像を安置した「岡堂」はこの近くにあつたのだろう。

その北が、今は埋め戻されて保育所が建つが、「越部ハサマ遺跡」。縄文晩期の墓地と弥生中期（約三〇〇〇年前から二〇〇〇年前）の竪穴式住

居跡が発見された。

温暖なこの地に住んでいた往時の人々。アユやアマゴなど吉野川の幸、シカやイノシシの肉、木の実や野草など山の幸に恵まれて、豊かであつたろう日々の生活がしのばれる。

古道をさらに進むと、鬱蒼とした大樹が天を覆う静寂の壺阪峠へ。峠を越えれば、壺阪寺、飛鳥へと続く。



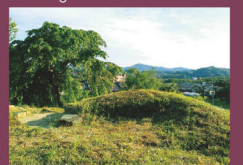
越部古墳

6世紀後半から7世紀にかけて造営された横穴式石室墳。1号墳からは、鳳凰をかたどつた裝飾大刀の柄頭部分が発見された。

1997年の調査後に埋め戻されたが、昨年、文化財ボランティアの手で再発掘され、石室の一部が姿を現した。吉野川から運ばれたと思われる緑色の板状の石が目玉を引く。

大阿太高原梨園

明治35年頃から大阿太高原で栽培が始められた二十世紀梨は、県下一の出荷高を誇る。一玉一玉見極めながら樹上で完熟させた梨だけを収穫するため、流通が少なく「幻の梨」と言われる。8月中旬から10月上旬にかけて、梨の収穫体験ができる。



物語の場所を訪れよう

越部古墳（大淀町越部）へは…
近鉄越部駅から北へ約350m

大阿太高原梨園
（大淀町薬水、大淀町佐名伝）へは…
近鉄大阿太駅、近鉄福神駅から徒歩15分



問大淀町企画政策課 ☎0747-52-5501